

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第12巻

<https://doi.org/10.15017/4403545>

---

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 12, 2016-03. TENDEC Office  
バージョン：  
権利関係：

## 1. はじめに

今年度の一番の話題は、何と言っても4月に国際医療部が新設されたことでしょう。平成27年度の大学改革活性化事業に採択されたことにより「アジア遠隔医療開発センター」を中心に改組され、海外患者に対応する「国際診療支援センター」、国際的人材の育成を担う「海外交流センター」の3センターより構成されています。専任の教授と准教授ポストが配置され、これまでよりも一層組織だった形で、国際化の推進を担うことになります。

2番目の話題はユーラシア横断情報ネットワーク（TEIN）のプロジェクトが始まり、医師と技術者の双方に向けた様々な教育プログラムが開始されたことです。アジア太平洋先端ネットワーク会議（APAN）における技術者ワークショップはその代表的な企画であり、真に有意義な研修や情報交換が出来たと思います。またワンマンズ・トレーニングと称する1か月間の研修には、医師と技術者の計25名がアジア各地から参加しました。

本年度はさらに日本学術振興会研究拠点形成事業アジア・アフリカ学術基盤形成型にも採択され、アジアにおける早期胃癌診断率向上のための継続的遠隔医療教育システムの構築へ向けた共同研究が始まりました。

また11月には第9回目となるアジア遠隔医療シンポジウムが韓国の忠北大学で開催され、14か国から150名が参加しました。昨年はエボラ出血熱やデング熱が世界的な話題となり、韓国ではMERSが大きな問題となりました。そのような状況の中から今年のテーマは、「感染症対策のための遠隔医療」とされ、多くの基調講演や発表がなされました。

通常の遠隔教育プログラムもこれまでも増して活発で、協力施設は現在56か国、423施設にまで達し、これまで596のプログラムを施行しています。アジアのみならず、ナイジェリアやエチオピアなどのアフリカ諸国とも4月に初接続され、また中南米のメキシコやコロンビアへの内視鏡ライブデモンストレーションも実施しています。

国内に目を向ければ、全国国立大学病院長会議の第3回全国合同会議を札幌で開催した他、新たに参加する施設の技術担当者を主な対象とした技術者マニュアルも作成中です。来年度以降、英語版や発展編の編集も考えています。またアジア遠隔医療開発センターのロゴ入りグッズも今年度初めて作成し、透明ファイルやポストイットなど使いやすく好評を博しています。

来年度以降、少し体制も変わりますが、これまで以上に効率的かつ発展的な活動を目指して邁進します。ご協力の程、宜しくお願い致します。

平成28年3月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター

清水 周次